



Q064. ASDってどういうもの？



A. 自閉スペクトラム症のことだね

これまで、自閉症、広汎性発達障がい、アスペルガー症候群など、いろいろな名称で呼ばれていたんだけど、2013年のアメリカ精神医学協会（APA）の診断基準DSM-5の発表以降は「自閉スペクトラム症（ASD=Autism Spectrum Disorder）」としてまとめて表現されるようになったんだ。対人関係が苦手であったり、強いこだわりが見られるといった特徴を持つ発達障がいのひとつなんだ。

最近では、早いと1歳半検診でその可能性を指摘されることもあるんだよ。

ASDの人たちの状態像はとても多様で多彩なんだ。

対人関係やこだわりの特性がきわめて強い状態だけではなく、これらの特性が少しでもあることで生活に支障をきたしてしまうことがあるんだね。

福祉的にも医療的にも、信頼できる専門家の適切なアドバイスのもと、状態を正しく理解して個々のニーズに合った適切な療育や教育的支援につなげていかなければいけないんだ。

最近の調査では、子どものおよそ20～50人にひとりがASDと診断される、とも言われているよ。男性に多く見られ、女性の2～4倍という報告もあるみたいだね。

でも今のところ、なにが原因でASDの症状が現れるのか、は解っていないんだ。

多くは遺伝的な要因が複雑に関与して起こる、生まれつきの脳の機能障がい原因と考えられているんだ。

これまでの多くの研究から、保護者の育てかたやしつけ方などが原因ではないことが解っているんだ。

ASDは病気ではなくて、持って生まれた「特有の性質（特性）」と捉えるほうが理解しやすいと思うよ。

特性、とされるものは様々あって、言葉の遅れや反響言語（オウム返し）、会話が成り立たなかったり、丁寧すぎたり、言葉の意味通りの言葉だったり、言語やコミュニケーションが得意でない人が多く見られるね。

乳児期の早い段階から、視線が合わない、身振りをまねしない、など他者との気持ちの共有が苦手だったりするよ。

大きくなって、関わりが一方的過ぎたり気持ちを共有が難しかったりして、友達ができにくかったり、対人関係の面で苦労することが多い傾向にあるんだ。

また、ひとつの興味のある事柄に対して、特化した才能を開花させる人も多くいて、好き、となれば他の人から見ると異常なほど関心を持つし、集中してしまう。

集中しすぎて切り替えがうまくいかなかったり、こだわり、というかたちで現れることもしばしばなんだけれどね。

感覚過敏まで行ってしまう感覚の鋭さ、逆に感覚鈍麻と言えるほどの鈍さなど、五感の感覚が鋭すぎるのが問題、ということも特徴的なところだね。

関わりかたは、一人ひとりの特性に合わせた教育的方法を用いた支援で、これを一般的に「[療育\(治療教育\)](#)」と呼んでいるよ。

療育を受けることによって、より良い生活が送れるようになっていくんだ。だけど、過剰な興奮やパニック、自傷他害行為、不眠なんかが見られる場合には、お薬が使われることもあるんだ。

ASDの人たちは、特性を理解してもらいにくいいため、ストレスがたまりやすい傾向にあるよ。いじめられたり、がんばっているのに認めてもらえなかったり失敗を繰り返してしまったり、などだね。

そのストレスが、頭痛や腹痛、食欲不振、チックなどの身体症状として現れたり、不安やうつ、過緊張、パニックなどの精神症状として現れたりすることもある。

[不登校](#)や引きこもり、自傷行為や暴言などの二次障がいを引き起こしやすくなることもあるよ。本人の生きづらさが軽くなるように、家族や周囲の人たちがその子どもの特性を理解して接し、二次障がいを最小に抑えていくことが、大切になってくるんだ。

ASDの子どもたちは、自分が得意だ、と言えること(できること)と苦手だ、と思うこと(できないこと)がとてもはっきりとしているよ。

そこで、得意なことはできる限り伸ばしていき、苦手なことは他の人に手伝ってもらったり、自分のできるやり方を見つけていく必要があるんだ。

得意なことと苦手なこと、この両方を見つけることが大事になってくるんだね。

そして関わっている人たちは、子どもは「特性を持ちつつ適応していく」という視点を持ち、凸凹のある発達のしかたを理解しサポートしていくことが大切なんじゃないだろうか。

[《MENU》](#)

[《ADHDってどういうもの？》](#)

[《ダウン症ってというのは？》](#)

放課後等デイサービス支援事業
Support Project of
Day-service for After-school
At Kyoto

2021-11-29 掲載